令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ

（様式１－１）　　**令和５年度　中堅養護教諭評価票（自己評価用）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | | 職　名 | 養護教諭 | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 校務分掌等 | |  | | | | |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅養護教諭として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅養護教諭として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅養護教諭として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅養護教諭として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | **使命感**  **・**  **責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持に努めることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携  わることができる。 |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えを受け止め、適切な助言やかかわりができる。  ・報告、連絡、相談を適切に行い、子どもや保護者、同僚との信頼関係を築くよう努め  ることができる。 |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専門性を高めることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を持ち、同僚と学び合いながら、よりよい教育実践に改善しようと努めることができる。 |
| Ｂ　知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに努めることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた適切な指導や支援をすることができる。 |
| **保健教育** | 学校保健に関する専門的知識や技能をより一層高めるとともに、健康課題解決のための保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。 |  |
| (例)・学校教育目標を受け、各校の健康課題や発達段階に応じた指導目標を設定でき、学校教育活動全体を通じた健康教育推進の中核的な役割を果たすことができる。  ・関連教科、特別活動等における保健教育に関する指導計画の策定に参画するとともに、教職員に向けて、児童生徒の実態に合わせた情報提供を行うことができる。 |
| **生徒指導** | 子どもが抱える現代的な健康課題の解決に向け、関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 |  |
| (例)・児童生徒の状況を的確に把握し、他の教員と組織的に対応しながら、健康課題の解決に向けた適切な支援をすることができる。  ・校内外の関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たし積極的、継続的な支援をすることができる。 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自己の役割を果たし、積極的に学校づくりに参画することができる。  ・課題解決に向けてチームで対応することを意識し、養護教諭の立場から積極的に業務に取り組むことができる。 | | | |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | |  |
| (例)・保護者や関係機関等と連携し、学校保健活動への理解や協力が得られるよう、情報発信することができる。  ・現代的健康課題の解決や保健教育について、迅速かつ正確な処理をするとともに、計画的に学校保健活動を推進することができる。 | | | |
| 危機管理 | 学校保健や学校安全に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | |  |
| (例)・学校保健や学校安全の視点から教育活動を円滑に推進するための環境づくりに努める  とともに、リスクの早期発見、早期対応に向け、適切な対応策を講じることができる。  ・危機発生時に適切に対応するとともに、積極的に情報収集を行い、改善に向けての対応策を提案することができる。 | | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校医等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特  性、気持ち及び困難の背景等の理解を基に、支援計画を立て、適切な指導や支援をす  ることができる。  ・関係教職員、保護者や学校医等と連携し、個々の課題を解決するために指導や支援の工  夫を図ることができる。 | | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した保健教育等を行い、保健管理・保健室経営等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用して、保健教育等の授業を行ったり、一人一人の児童生徒の状況  を多面的に確認し、生活改善等を支援したりすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うことができる。 | | | |
| 研修に向けての課題等 |  | | | | | |
|  | | |  | 評価年月日 | 令和　　年　　月　　日 | |

令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ

（様式１－２）　 **令和５年度　中堅養護教諭評価票(案)（校長評価用）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | | 職名 | 養護教諭 | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 校務分掌等 | |  | | | | |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅養護教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅養護教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅養護教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅養護教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持に努めることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えを受け止め、適切な助言やかかわりができる。  ・報告、連絡、相談を適切に行い、子どもや保護者、同僚との信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専門性を高めることができる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を持ち、同僚と学び合いながら、よりよい教育実践に改善しようと努めることができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに努めることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた適切な指導や支援をすることができる。 |
| 保健教育 | 学校保健に関する専門的知識や技能をより一層高めるとともに、健康課題解決のための保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。 |  |
| (例)・学校教育目標を受け、各校の健康課題や発達段階に応じた指導目標を設定でき、学校教育活動全体を通じた健康教育推進の中核的な役割を果たすことができる。  ・関連教科、特別活動等における保健教育に関する指導計画の策定に参画するとともに、教職員に向けて、児童生徒の実態に合わせた情報提供を行うことができる。 |
| 生徒指導 | 子どもが抱える現代的な健康課題の解決に向け、関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 |  |
| (例)・児童生徒の状況を的確に把握し、他の教員と組織的に対応しながら、健康課題の解決に向けた適切な支援をすることができる。  ・校内外の関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たし積極的、継続的な支援をすることができる。 |

受講者名

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自己の役割を果たし、積極的に学校づくりに参画することができる。  ・課題解決に向けてチームで対応することを意識し、養護教諭の立場から積極的に業務に取り組むことができる。 | | | | | |
| 参画 ・ 運営 | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |  |
| (例)・保護者や関係機関等と連携し、学校保健活動への理解や協力が得られるよう、情報発信することができる。  ・現代的健康課題の解決や保健教育について、迅速かつ正確な処理をするとともに、計画的に学校保健活動を推進することができる。 | | | | | |
| 危機管理 | | 学校保健や学校安全に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |  |
| (例)・学校保健や学校安全の視点から教育活動を円滑に推進するための環境づくりに努めるとともに、リスクの早期発見、早期対応に向け、適切な対応策を講じることができる。  ・危機発生時に適切に対応するとともに、積極的に情報収集を行い、改善に向けての対応策を提案することができる。 | | | | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校医等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子ども  の特性、気持ち及び困難の背景等の理解を基に、支援計画を立て、適切な指導や  支援をすることができる。  ・関係教職員、保護者や学校医等と連携し、個々の課題を解決するために指導や支  援の工夫を図ることができる。 | | | | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | | ICTを効果的に活用した保健教育等を行い、保健管理・保健室経営等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用して、保健教育等の授業を行ったり、一人一人の児童生徒の状況  を多面的に確認し、生活改善等を支援したりすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うことができる。 | | | | | |
| 総　合　所　見 |  | | | | | | | | |
| 評価  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 評価者 | 職名 | 校長 | 氏名 |  | |

（様式２）　**令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ実施計画書(案)**

校名（　　　 　　　 　　　　学校）　　受講者名（　　　　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　校長名（　　　　　　　　　　　　　　）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | |  | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | 校内等における研修 | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  |  |  |
| ５ |  |  |  |
| ６ |  |  |  |
| ７ |  |  |  |
| ８ |  |  |  |
| ９ |  |  |  |
| １０ |  |  |  |
| １１ |  |  |  |
| １２ |  |  |  |
| １ |  |  |  |
| ２ |  |  |  |
| ３ |  |  |  |

（様式２）記入例　　**令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ実施計画書(案)**

実施計画書案が決定したら、案を取り、実施計画書として提出する。

校名（　　　 　　　 　　　　学校）　　受講者名（　　○○　○○　　　　　）

評価票案等に基づき、中堅養護教諭の

意見や希望を参考にしながら決定する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　校長名（　　○○　○○　　　　　）

「Ⅲ　１　県教育センター等における研修」を基に作成する。（５日）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | | ・効果的な保健室経営について  ・保健指導における教材、教具の工夫について | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | 校内等における研修 | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  | 「Ⅲ　２　校内等における研修」を基に作成する。（３日程度） | ○自己評価票、実施計画書案の作成・提出（校内） |
| ５ |  |  | ○評価票案、実施計画案の提出(10日)  ○課題作成  (６月６日集合研修に向けて)  ○実施計画の決定  〇実施計画書提出（17日） |
| ６ | ○県教育センター主催研修  （６日） |  | 〇「生徒指導に関する事例研究」資料準備（29日・センターへ提出） |
| ７ | ○県教育センター主催研修  （26日） | ○校内研修（保健指導について） |  |
| ８ | ○県教育センター主催研修  （１日）  ○県教育センター主催研修  （４日） |  |  |
| ９ | 〇オンライン研修  「生徒指導について」受講 |  | 〇オンライン研修「生徒指導について」  レポート作成 |
| １０ |  | ○校内研修（学校環境衛生活動について） |  |
| １１ |  | ○校内研修  （スクールカウンセラーとの面談） |  |
| １２ |  | ○校内研修（ICT研修） | ○課題作成  (１月５日集合研修に向けて) |
| １ | ○県教育センター主催研修  （５日） |  | ○研修受講記録提出（校内） |
| ２ |  | ○校内研修  （次年度の保健教育指導計画作成（カリキュラム・マネジメントの視点をもって）） | ○実施報告書作成・提出（校内） |
| ３ |  |  | ○実施報告書提出(１日) |

(様式３－１) 　　　　　　　　　生徒指導に関する事例研究

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 職名 |  | 受講者名 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 選択したものに〇 | 分　科　会 | |
|  | １ | 学校不適応・不登校 |
|  | ２ | 発達障害に起因する生徒指導上の問題 |
|  | ３ | いじめ・ネットトラブル等問題行動 |
| 題　名 |  | |
|  | | |

（様式３－１）記入例　　　　　　　生徒指導に関する事例研究

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 職名 |  | 受講者名 |  |

どれか一つを選択し〇をつける。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 選択したものに〇 | 分　科　会 | |
|  | １ | 学校不適応・不登校 |
| 〇 | ２ | 発達障害に起因する生徒指導上の問題 |
|  | ３ | いじめ・ネットトラブル等問題行動 |
| 題　名 | 衝動的な行動をとる生徒Ａ  事例に題名をつける。 | |
| １　対象生徒について  　対象生徒Ａは、運動は好きであるが、・・・・・・・・・であり、友人とトラブルを起こすことが多い。特に・・・。また、授業においては・・・。普段の生活面では・・・。  ・１、２、３の項目は例であるので、変更しても構わない。  ・内容から個人が特定できるような記述はしない。  　　　　　　　　　　　<避けるべき表現>　　　　　　　　　 <望ましい表現>  〇〇部（具体的な部活動名や委員会名等）に所属　→　運動部に所属  〇〇病院（具体的な病院名や施設名等）と連携　　→　関係機関と連携  〇〇県（具体的な県名や市町名等）から転入　　　→　県外から転入  ２　問題の現状について  　特に気がかりなことは・・・。現在は・・・という対応をとっている。  ３　今後の対応について  　生徒指導対策委員会で、・・・。  ※　Ａ４サイズ１枚（両面印刷可）  ※　記述できないが必要であると思われる情報については、手持ちの資料として用意し、口頭で伝える。  ※　県教育センターへ送付する前に管理職へ提出し、記載内容について指導・了解を得ること。  送 付 先　　香川県教育センター　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ担当者あて  　　　　　　〒７６１－８０３１　高松市郷東町５８７－１  　　送付期限　　令和５年６月２９日（木）まで　2部　逓送又は郵送してください | | |

（様式３－２）

中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ(小・中)　　　　　　　　　令和 年 月 日

**オンライン研修（必修）「生徒指導について」レポート**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | 校名 |  |
| 校長名 |  |
| 受講者名 |  |
| 受　講　日 | 令和　　　年　　　月　　　日（　　） | | |
| 研修の概要 |  | | |
| 受講後の感想等 |  | | |

※県教育センターへ提出する前に管理職に確認を得る。

※第５回研修の際に１部持参するか、それまでに県教育センターへ逓送又は郵送する。

(様式例４－１)　**中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ　県教育センター等における研修受講記録**

校　名（　　　　　　　　　　　　学校）　　受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)曜日　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)曜日　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |

　※学校独自の様式も可。

(様式例４－２)　　**中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ　校内等における研修受講記録**

校　名（　　　　　　　　　　　　学校）　　受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修日時 | 研修内容 | 研修成果及び感想 |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～  ： |  |  |

※学校独自の様式も可。

（様式５－１）　**令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ実施報告書（本人用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | 職名 | 養護教諭 | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  | |
| 受講者名 |  | |
|  | | | | | | | | |
| 観　点 | | 育成指標 | | | | | | 報告及び自己評価 |
| **A**  **素**養・資質 | **使命感・責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | |  |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | |  |
| **保健教育** | 学校保健に関する専門的知識や技能をより一層高めるとともに、健康課題解決のための保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。 | | | | | |
| **生徒指導** | 子どもが抱える現代的な健康課題の解決に向け、関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| **参画・運営** | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |
| **危機管理** | 学校保健や学校安全に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校医等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | ICTを効果的に活用した保健教育等を行い、保健管理・保健室経営等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| 成果と課題 |  | | | | | | | |
|  | | | | | 報告年月日 | | | 令和　　年　　月　　日 |

（様式５－２）　**令和５年度　中堅養護教諭資質向上研修Ⅰ実施報告書（校長用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | | | 職名 | | 養護教諭 | | | ﾌﾘｶﾞﾅ | |  |
| 受講者名 | |  |
|  | | | | | | | | | | | | |
| 観　点 | | | 育　成　指　標 | | | | | | | | | |
| A  素養・資質 | **使命感・責任感** | | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | | | | | |
| **コミュニケーション** | | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| **自己研鑽** | | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | | | | | |
| **保健教育** | | 学校保健に関する専門的知識や技能をより一層高めるとともに、健康課題解決のための保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。 | | | | | | | | | |
| **生徒指導** | | 子どもが抱える現代的な健康課題の解決に向け、関係者との連携において、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 | | | | | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | | | | | |
| **参画・運営** | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | | | | | |
| **危機管理** | | 学校保健や学校安全に関する多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員、保護者や学校医等と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | | | | | |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | | ICTを効果的に活用した保健教育等を行い、保健管理・保健室経営等の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | | | | |
| 報告  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 報告者 | | 職名 | | 校長 | 氏名 | |  | |